

工業経営研究学会第33回大会
環境経営学研究分科会報告会

2018年9月12日(水)9時00分~9時35分
追手門学院大学 安威キャンパス (5604 教室)

- 研究発表1『四苦八苦』と〈自然〉との共生 鈴木幸毅 (駒澤大学)
研究発表2「企業の気候変動対策とSDGs」 鶴田佳史 (大東文化大学)
研究発表3「企業の環境・CSRパフォーマンスと企業業績の関係性に関して」
九里徳泰 (相模女子大学)
研究発表4「ESG、統合報告、SDGsと企業のサステナビリティ戦略」
八木俊輔 (追手門学院大学)
研究発表5「資本の現代的変容とCSR—スポーツ産業のイノベーションをめぐる—」
久富健治 (神戸山手大学)

環境経営学研究分科会について

(1) 趣旨・目的

環境経営学が目指すところは、〈人類の危機〉といわれる地球環境問題に焦点を合わせて、それが投げかける問題状況を企業の社会問題(企業問題)として解明することによって、環境経営の理論と実践に資することにある。

ところが、環境経営学は今や、大きく進展した。企業は「環境」を避けて通れない、〈環境倒産〉があり得る時代になった。

2つの研究分科会(「環境研究分科会」主査・鈴木幸毅、「循環型社会研究分科会」主査・浅野宗克)をめぐる状況は、その活動の当初から大きく変化した。すなわち〈環境問題は産業公害問題から都市生活型公害問題、「アメニティ」問題へ、そして地球環境問題と推移してきた〉との認識から〈温暖化は人為起源の温室効果ガスGHGが原因との認識〉に変わり、さらに〈異常気象、異様な天変地異(巨大激甚な地震、風水害、火山噴火など)、自然・生態系の異常変異は温暖化の起因という認識〉に変わってきた。IPCCは第4次報告(2007)で人為起源の温室効果ガスGHGの影響と結論し、第5次報告(2014)も発表された。京都議定書の約束期間は終え、次のGHG削減の新約束の時期が迫っている。

こうした変化を受け止めて、ここに2つの研究分科会を統合して「環境経営学研究分科会」を設立し、研究体制を固め、環境経営学のさらなる深化を目指して行動する。

(2) 最近の活動

- ・ 研究報告会の実施 2018年6月8日(金)
鈴木幸毅「アベノミクスと異型の経済政策」
九里徳泰「EMPIRICAL ANALYSIS OF CORPORATE SUSTAINABILITY PERFORMANCE: JAPANESE FIRMS' ENVIRONMENTAL AND ECONOMIC PERFORMANCE LINKAGE」
鶴田佳史「ステークホルダビリティの理論的展開に向けて」
- ・ ホームページの作成 <http://kunori.world.coocan.jp/omes.htm>

(3) 今後の予定

- ・ 報告研究会開催
- ・ 研究成果の公表・出版
- ・ ワーキングペーパーの発行
- ・ 外部競争資金獲得の推進

事務局・問合せ先

鶴田佳史 (つるた・よしふみ) (大東文化大学社会学部)

〒175-8571 東京都板橋区 高島平 1-9-1

電話: 03-5399-7300 (内線 3428)

FAX: 03-5399-7355 (社会学科事務室)

E-mail: tsuruta@ic.daito.ac.jp